



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：アジア系米国人（米国）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国から社会人10名が2018年10月8日～10月15日の日程で来日しました。日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加し、講義、視察、日本人との交流を通じて幅広く日本を理解する機会を持ちました。

【参加国・人数】

米国：10名

【訪問地】

東京都、神奈川県、京都府、広島県

2. 日程

10/8（月）	【来日】
10/9（火）	【来日オリエンテーション】 【講義】経済産業省 【講義】文部科学省 【視察】トヨタ・メガウェブ
10/10（水）	【講義】厚生労働省 【表敬訪問】辻清人外務大臣政務官 【視察】神奈川県立神奈川総合高等学校
10/11（木）	【視察】浅草寺 【視察】東証 Arrows 【視察】NTT データ INFORIUM 豊洲イノベーションセンター
10/12（金）	東京都から広島県へ移動 【視察】厳島神社・宮島 【視察】広島平和記念公園・広島平和記念資料館 【講義】被爆体験講話
10/13（土）	広島県から京都府へ移動 【視察】金閣寺 【視察】妙心寺 【文化体験】座禅体験・茶道体験（春光院）
10/14（日）	【視察】無鄰菴 【視察】伏見稲荷大社 【視察】月桂冠大倉記念館 京都府から東京都へ移動
10/15（月）	【離日】

3. プログラム記録写真

	
10/9【講義】経済産業省	10/9【視察】トヨタ・メガウェブ
	
10/10【表敬訪問】辻清人外務大臣政務官	10/11【視察】東証 Arrows
	
10/12【講義】被爆体験講話	10/13【文化体験】座禅体験（春光院）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆日本社会の礼儀正しさ，丁寧さ，そして清潔さに大変感銘を受けました。私はこれまで数多くの国を訪問したことがあり，また，特にアメリカ出身なので，建物や技術にそれほど感銘を受けることはありません。しかし，私が本当に感銘を受けたのは，日本の社会では，細部に注意を払うことと，平和と調和を大切にしていることです。自動車は車線内を走行していますし，道路は交差点で渡ります。何より，東京のような忙しい都会であっても，道でクラクションが鳴るのを一度も聞きませんでした。技術を構築することは誰にでもできますが，このような丁寧で，礼儀正しい，規律を順守する人々からなる国を作ることは誰にでもできることはありません。また是非日本を訪問したいと思いますし，私のできるところで日本と日本国民を支援し続けたいと思っています。

◆講義では、日本の高齢化社会の危機に大変興味を持ちました。この動向には今後も注目していきたいと思います。学校訪問では、生徒たちがどのように授業を選択するようになっていくかが印象的でした。高校の先生と繋がることができたので、これからも連絡を取り合うことで、何が日本の教育制度を素晴らしいものになっているのかを引き続き学びたいと思います。日本の政府機関の方々は、国に対して愛着を持ち、情熱を持って仕事をしていると感じました。皆気さくな方々で、多くの意見交換を通して、私たちを歓迎してくれたことがうれしかったです。日本滞在中に実に多くの学びと驚きがありました。また私自身が、先祖から受け継いだ祖父の母国について知ることができたのは、とても素晴らしいことでした。いつかまた日本を訪れたいです。それまでの間、アメリカで日本のことを積極的にプロモーションしていきます。

◆省庁訪問と学校訪問によって、日本の各種機関の構造面について知識を深めることができました。トヨタメガウェブとNTT データへの視察は、日本がイノベーションと先端技術のリーダーであるという私の印象をさらに強固なものにしました。厚生労働省と経済産業省への訪問は、日本のマクロ的な課題と、その課題に向き合う日本の取り組みについて知るのに役立ちました。そして何よりもよかったことは、プログラム全体を通して、日本の歴史と文化、そして独特の社会制度の真価を深く認識することができたことです。

5. 参加者の対外発信

Visiting the Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology & they teach their students about creating a disaster preparedness map @eyesaresmiling #akehashi2018 #jice #USA 	Continuing on my trip to Japan and the Kakehashi 2018 program...it is a power of compassion by the Hiroshima survivor of the nuclear bomb that struck so many cords on a personal and professional levels. Our meeting was not about politics or military dominance. It was a conversation about the human tragedy and our ability to cope with the loss but persevere regardless of what life brings to us daily. 翻訳を見る 
文部科学省についての発信 (Instagram) 文部科学省を訪問し、学生に災害対策地図の作成について指導しているとの説明がありました。	プログラムについての発信 (Facebook) 2018 年カケハシ・プロジェクトに参加し、個人としてまた公の立場としても心を揺さぶられたことは、広島市の被爆者の慈悲の力です。 私たちの対話は、政治や軍事的支配に関するものではなく、日々私たちにもたらしている人間の悲劇と、その犠牲から立ち直る私たちの能力についての会話でした。